

秋津地域の決断！ 多面的が支えた地域の絆

あきつちいき

熊本市秋津地域

農地・水・環境保全管理協定

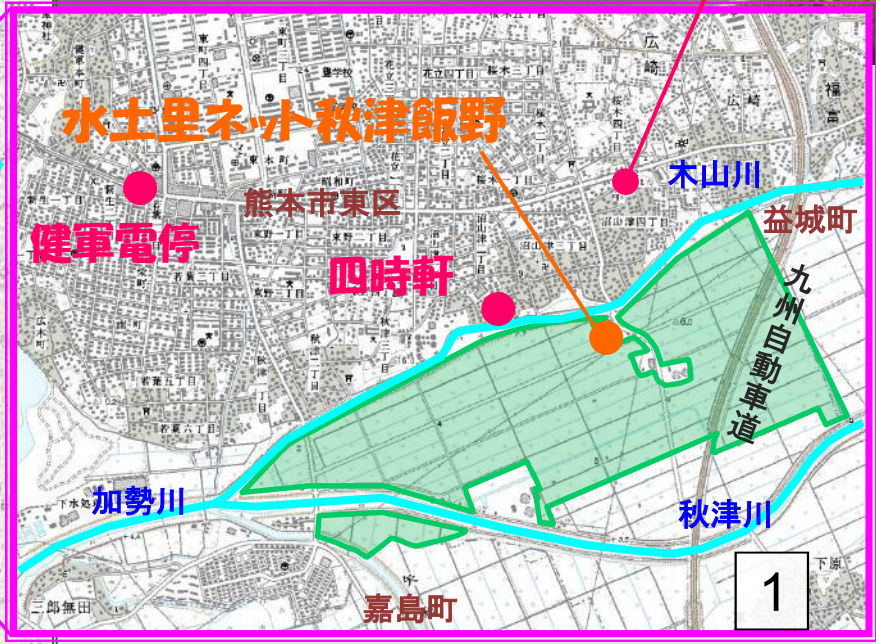
会長 中川 有朋 (秋津営農組合長)

事務局 竹中 宏豊 (水土里ネット秋津飯野)

秋津地域の概要



横井小楠像



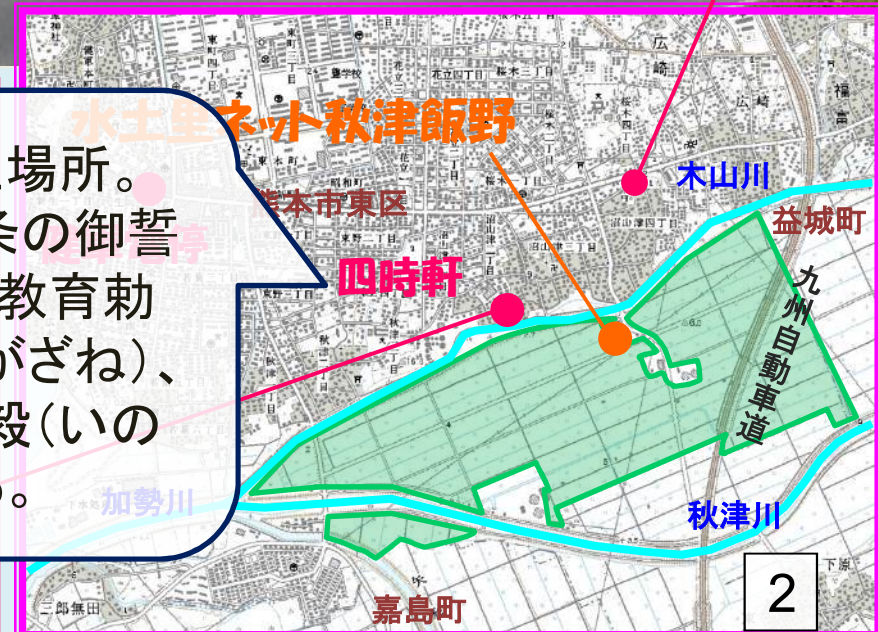
秋津地域の概要

幕末維新の開明思想家として知られる横井小楠は、内坪井(現在の熊本市坪井)に生まれ、安政2(1855)年に沼山津へ移り住み、家塾「四時軒」を開き、多くの門弟を養成した。秋津には小楠公園があり、小楠の銅像や頌徳碑(小楠の徳をたたえる碑)などが建てられている。



横井小楠像

横井小楠の旧居で家塾「四時軒」を開いた場所。かの坂本龍馬(さかもとりょうま)や「五か条の御誓文」を起草した由利公正(ゆりきみまさ)、「教育勅語」の起草に尽力した元田永孚(もとだながざね)、「大日本帝国憲法」の草案をつくった井上毅(いのうえこわし)らもこの「四時軒」を訪れている。



熊本市秋津地域農地・水・環境保全管理協定の概要

住 所：熊本市東区
秋津町沼山津

設 立：平成19年(農地水1期対策)

認定農用地面積：151ha

構成員人数：約250名
農業者約200名
非農業者約50名

役員構成：代表1名、副代表2名、
会計1名、監事2名
委員18名、事務局1名



熊本市秋津地域農地・水・環境保全管理協定

秋津地域農地・水・環境保全管理協定
運 営 委 員 会

監 事

沼山津第1
(第1集落)

沼山津第2
(第2集落)

中無田
(第3集落)

西無田
(第4集落)

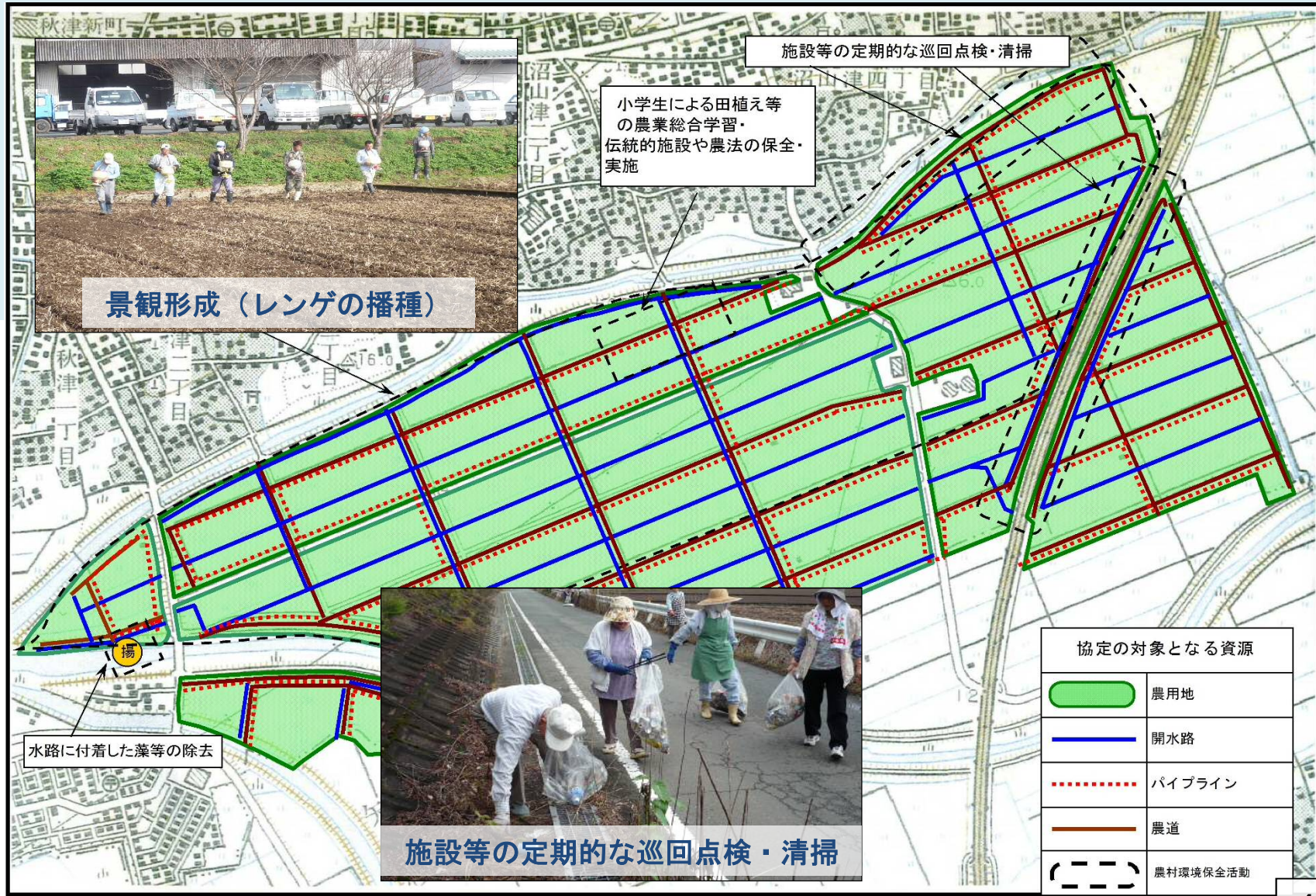
J A熊本市湖東支店

秋津営農組合

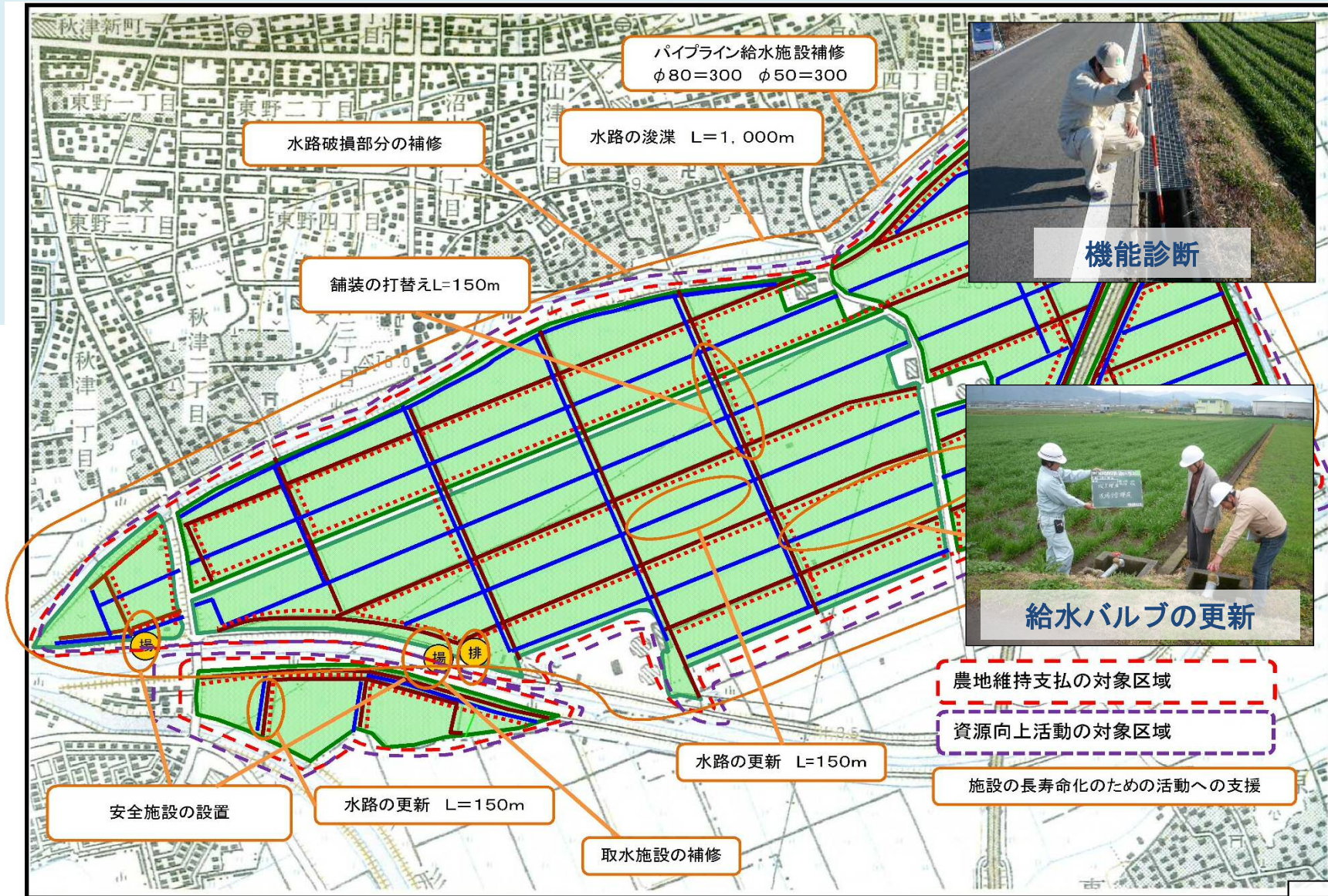
秋津飯野土地改良区

秋津まちづくり交流室
(あさひば事務局)

農地維持及び共同活動の概要



長寿命化活動の概要



景観形成活動



レンゲ祭り開会



レンゲの播種



祭り会場での広報



500人以上の来場者

レンゲを楽しむ子ども達

地域の中学校による演奏

多面的機能支払事業で取り組む景観形成「レンゲの播種」がきっかけで、秋津に興味を持ってもらうためのレンゲ祭りが開催され、地域のPRとなっていた。

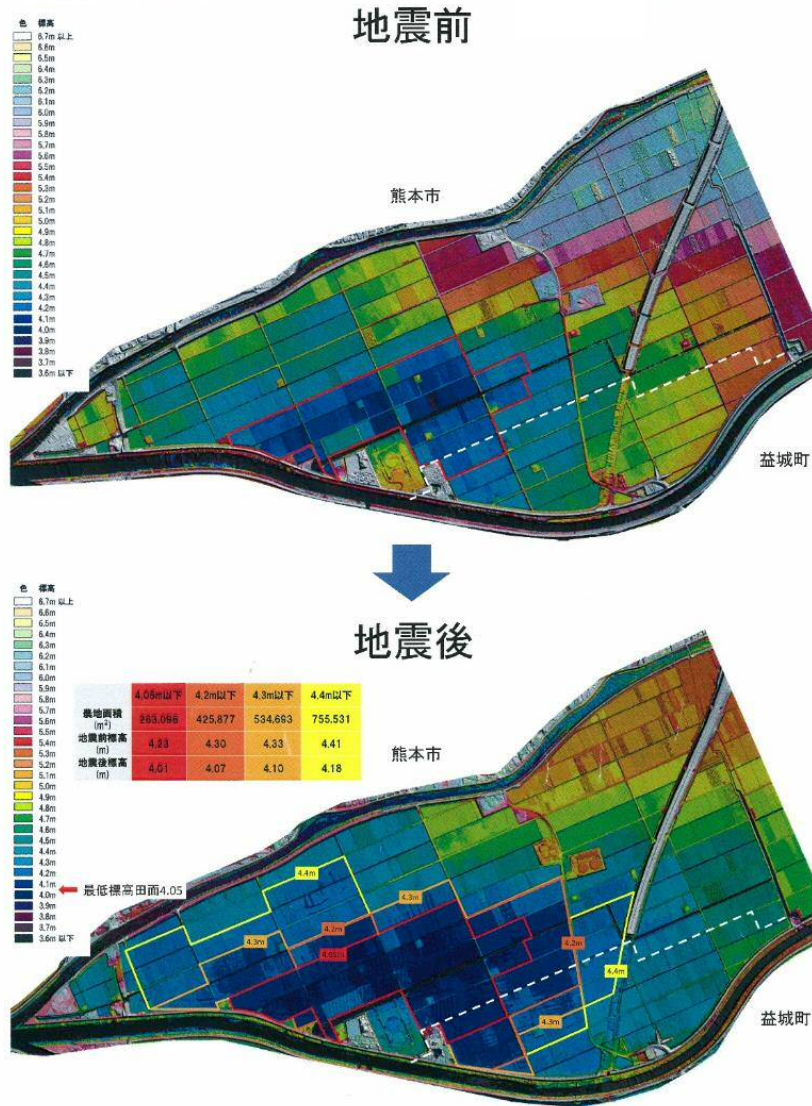
実際の被害状況(農道・水路)



実際の被害状況(農地)

熊本県県央広域本部作成
資料より一部抜粋

地震前後の標高比較図



実際の被害状況(農地)

農研機構作成
資料より一部抜粋

ドローンの画像から作成した3次元モデル

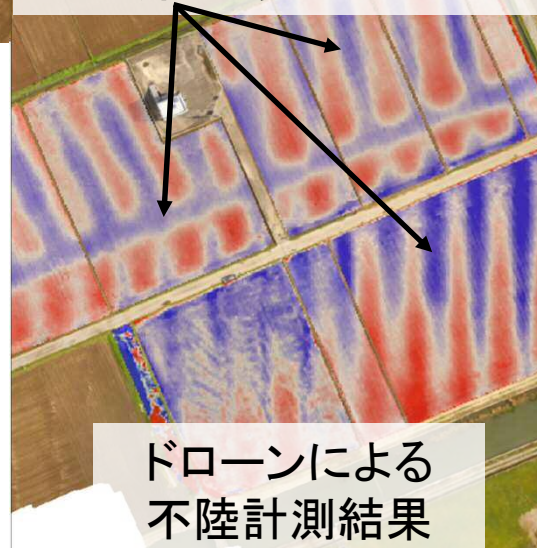


水田圃場の不陸状況

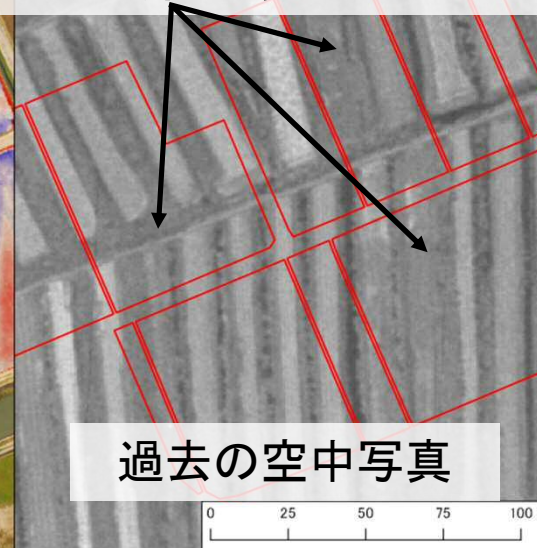


現在の空中写真と過去の空中写真の比較

水路があったところ



水路があったところ



- ・現在の地形や空中写真と、過去の空中写真を比較したところ、過去に水路があったところで凹んでいることがわかった。

地震発生後の秋津地域の対応

地震発生直後の状況

- ・5月の連休には稲作の準備が始まるため、用水の確保や稲の作付けが可能な状態か、早急な判断が迫られた。
 - ・農道が被災し、大きな段差等で通行できず、地域内の被災状況の把握も困難となった。
 - ・経験値として、10年ほど前の地震(震度4)でも、用水パイプラインが破損したことがあり、今回の地震では更に大きな被害が予想された。
 - ・6月には麦の収穫を控えており、水稻作付が不確実なため、農家の経営安定のためにも、麦の収穫を確実なものにしなければならなかった。
- ・このような状況の中、多面的機能支払へ取り組む活動組織として、どう対応できるのか。

地震発生後の秋津地域の対応

活動組織による地震後の見回り



地震発生後の秋津地域の対応

秋津地域の決断①

麦の消毒や収穫の為に、全ての農地へ行く為の農道の復旧が不可欠

現状把握と麦の収穫の為、第一に農道の応急復旧を実施！

- ・応急措置として、多面的機能支払事業を活用。
- ・規模の大きな段差解消は工事業者へ発注。
- ・同時に農道の自力復旧を実施。



活動組織による自力復旧により通行可能となり、麦の収穫にも対応することができた。

地震発生後の秋津地域の対応

多面的機能支払事業を活用した応急措置



地震発生後の秋津地域の対応

秋津地域の決断②

用水パイプラインの破損により、水稻作付に伴う用水確保が危惧される中、農家の収入を確保するために、地域全体で大豆の作付を決定した。

・秋津地域の方針を決定するため、多面的の運営委員会のメンバーが主体となって、営農対策会議を開催した(後の『秋津地区未来創造プロジェクト会議』)。

活動へ取り組むことで、広域的な地域の繋がりが生まれ、水稻から大豆への作付転換をスムーズに行うことができた。



日頃から多面的機能支払事業で繋がりを持っていたため、迅速に営農方針が決定され、大豆への作付転換により収入を確保することができた。

地震発生後の秋津地域の対応

秋津地域の決断③

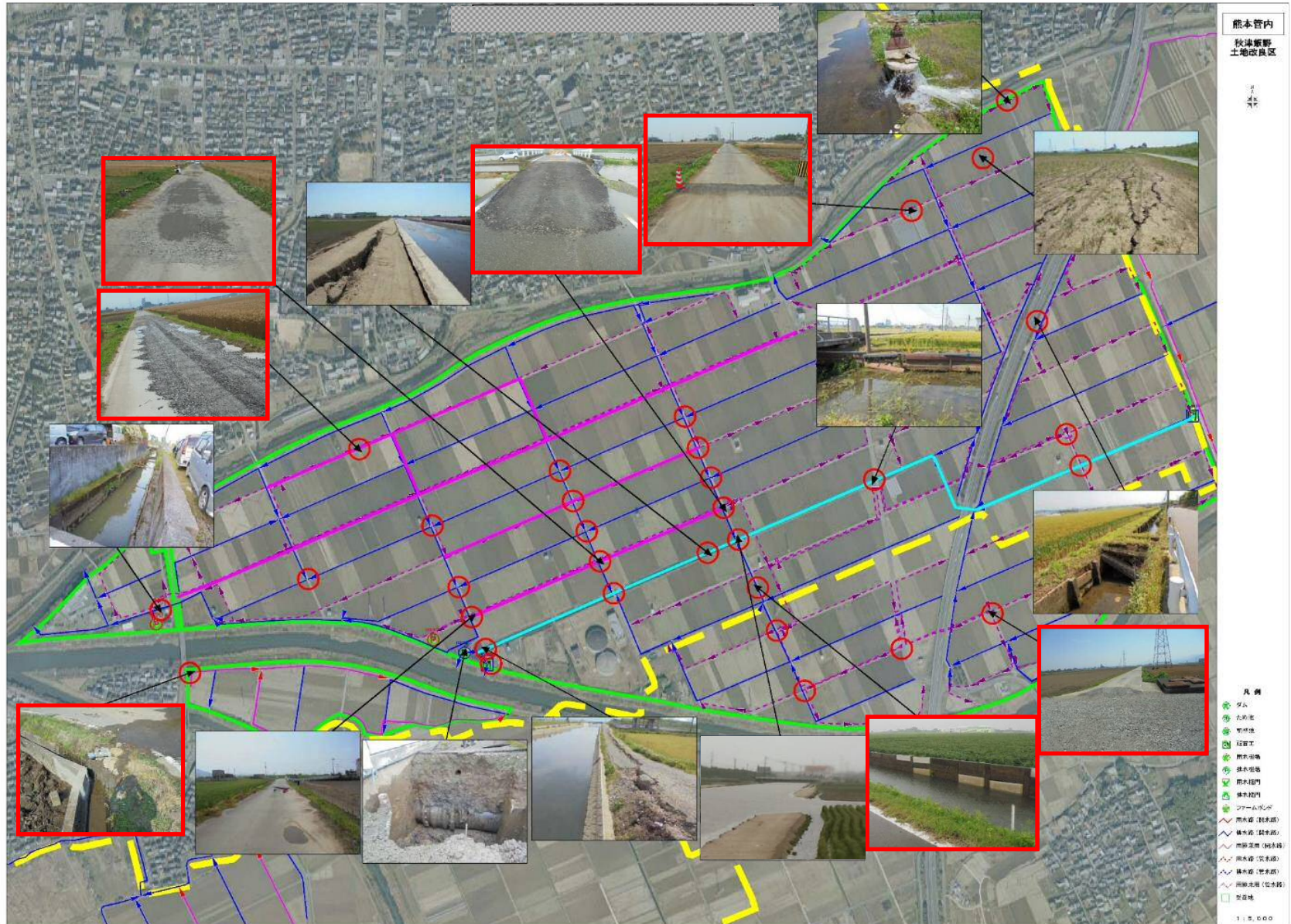
用水パイプラインは、災害復旧事業で対応することにした。

- ・過去の経験から、用水パイプラインの被災については広範囲におよぶことが想定されたため、多面的機能支払事業での対応の範疇を超えていると判断し、災害復旧事業で対応することとした。
- ・地震後の調査の結果、用水パイプラインの破損は広範囲で、箇所数は150を超えていた。
- ・災害復旧事業を活用し、現在復旧中。

多面的機能支払事業と災害復旧事業を使い分けることで、速やかに応急・復旧に対応することができた。

秋津地域の復旧・復興状況

 多面的で対応済
 災害復旧事業等で対応中



秋津地区の創造的復興のための 行政(熊本県・熊本市・益城町)との取組み

秋津地区(熊本市・益城町)における創造的復興

《被害概要及び復旧復興方針》

熊本県県央広域本部作成
資料より一部抜粋

復旧・復興に向けて

- 平成28年7月、地元が中心となり「秋津地区未来創造プロジェクト会議」が設置され、復旧計画の検討を実施。
- 同会議において、単なる原形復旧ではなく、地域の将来を見据え、更なる発展を目指す「創造的復興」に取り組むことを決定。

秋津地区が目指す創造的復興

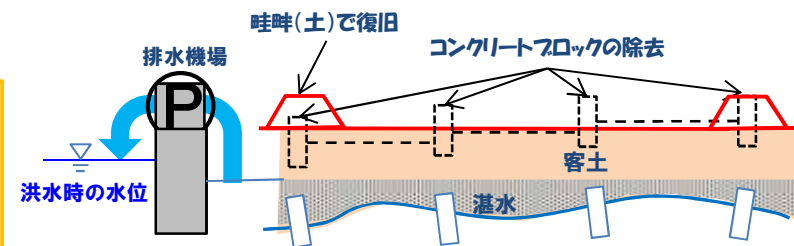
～地域一体となって未来を見据えた持続可能で安定的な営農を目指す～

基本方針

- ①現況の標準区画0.3ha⇒農地の大区画化(0.5ha～1.0ha/筆)
- ②秋津営農組合等への農地集積

復旧内容

- 客土(88,000m³)による農地の嵩上げ及び不陸の解消
- コンクリート畦畔の撤去及び土畦畔の設置による区画拡大
- 暗渠排水工の復旧(再設置)
- 農業用パイプラインの復旧(漏水箇所約150箇所)
- 支線農道や橋梁の復旧
- 揚水機場の建て替え
- 排水機場の場内舗装の復旧



農地の復旧イメージ

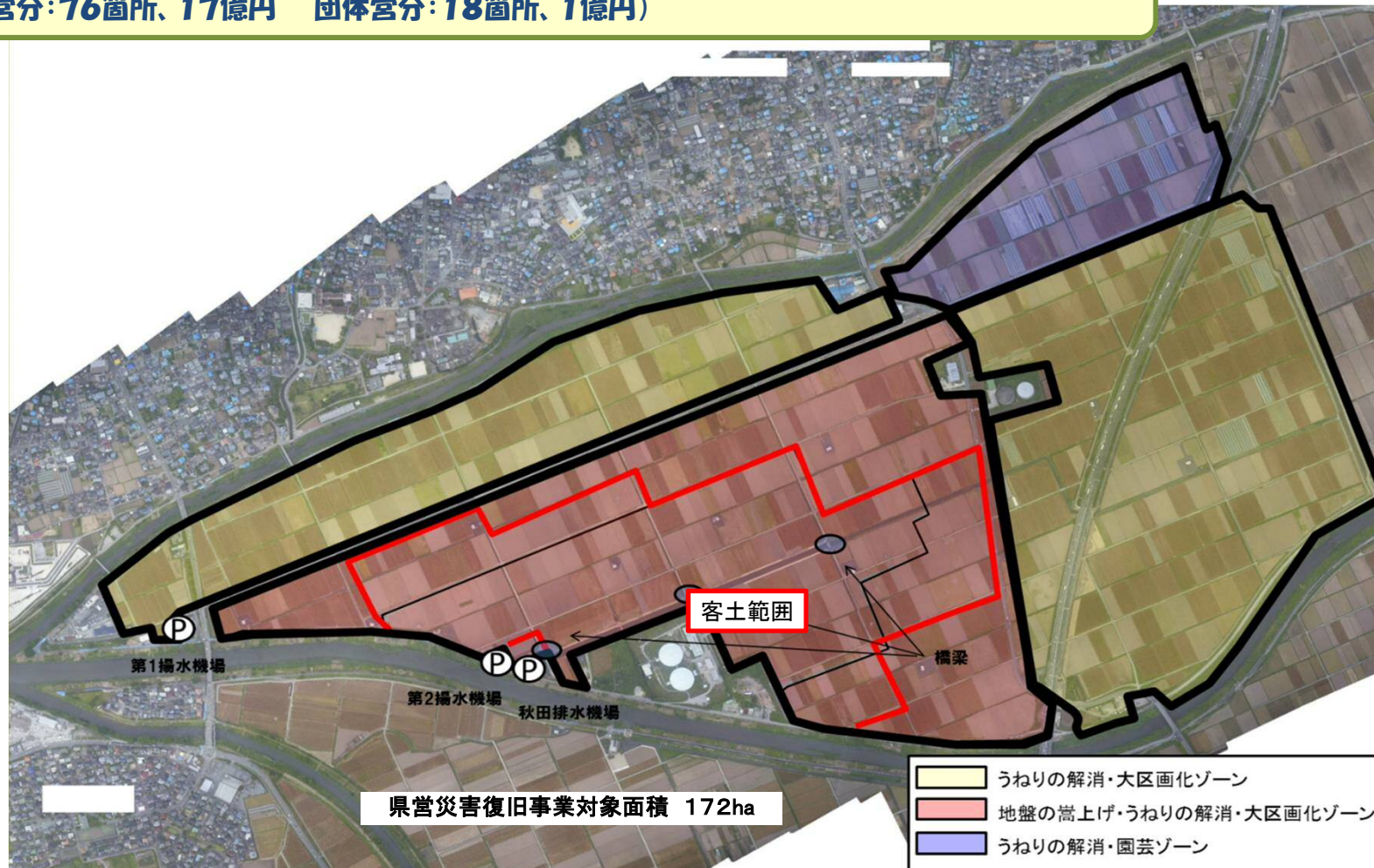
秋津地区(熊本市・益城町)における創造的復興

《具体的な取り組み》

熊本県県央広域本部作成
資料より一部抜粋

復旧・復興事業計画

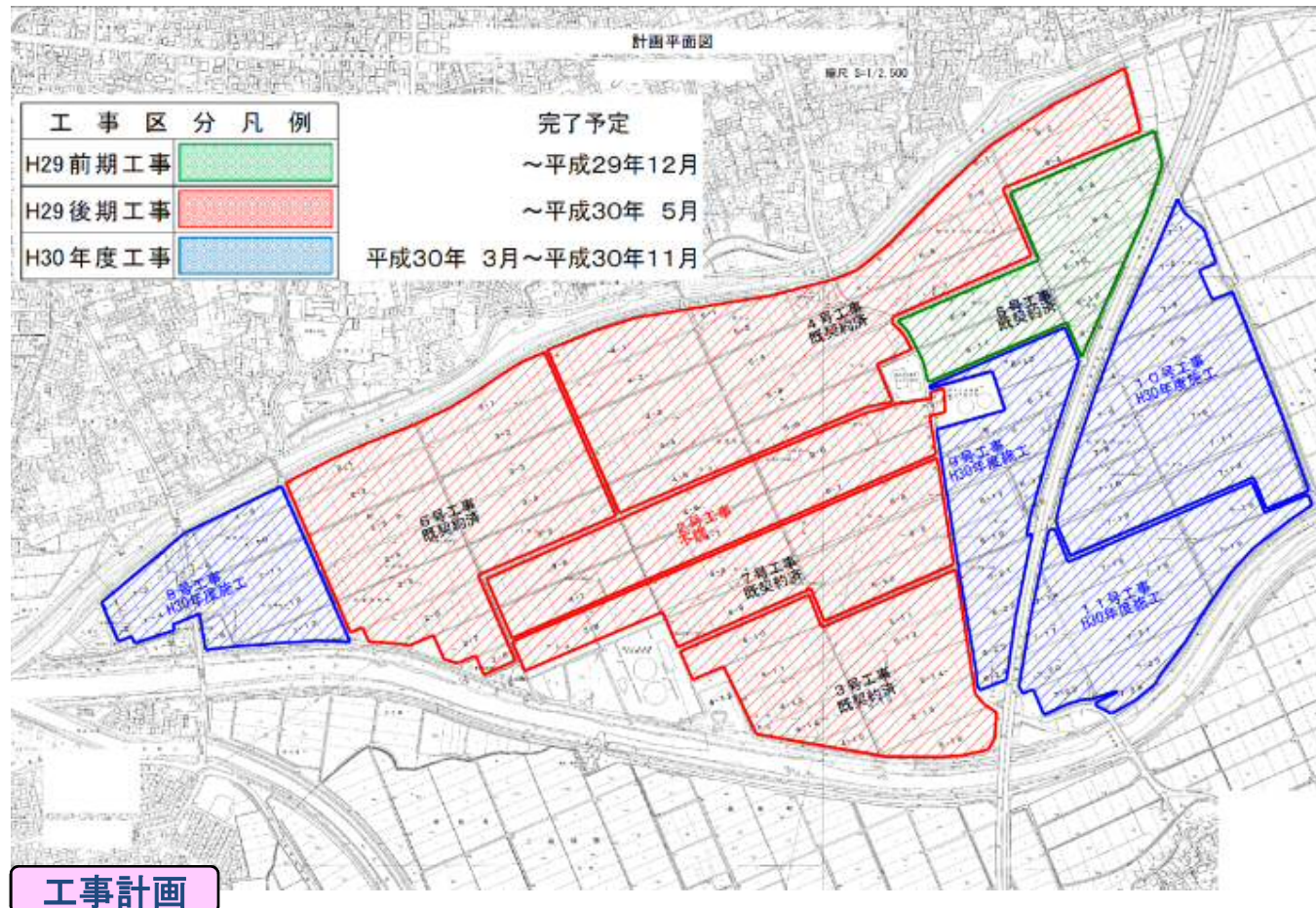
○災害査定が平成29年1月までに行われ、秋津地区の災害復旧として約18億円の事業費が決定。
(県営分:76箇所、17億円 団体営分:18箇所、1億円)



秋津地区(熊本市・益城町)における創造的復興

《具体的な取り組み》

熊本県県央広域本部作成
資料より一部抜粋



- 営農への影響を最小限にするため、麦作期(1月～6月)と大豆作期(7月～12月)に分けて工事を実施。
- 平成30年12月の復旧工事完了を目指す。

まとめ

- ・ 日頃から、多面的機能支払事業の活動へ取り組み、農業者に限らず地域全体での繋がりを強固とすることで、予期せぬ災害発生時等では、地域の助け合いや、意思決定機関の設立、実施体制づくりなど、迅速に対応することができる。
- ・ 多面的機能支払事業の活動があったからこそ、自力復旧に取り組む際の繋がりが確保でき、更には、県と一緒に創作的復興事業に取り組めた。
- ・ 未曾有の災害を教訓にし、復興後は、これまで以上に、地域と共に幅広い活動へ取り組む活力を育むためにも、いま出来る活動をしっかりと取り組み、繋がりを守ることが、秋津地域で取り組んでいる多面的機能支払事業の役割と考える。

最後に ～秋津地域への熱い思い～

多面的機能支払事業がモデル事業だった頃から継続し続けていた「景観形成」によるレンゲの播種は、今や「レンゲ祭り」として地域行事に発展しました。

地震後は開催出来ていませんが、復興後は地域交流の為に「レンゲ祭り」を再開できるように、多面的機能支払事業を活用しながら地域の絆を磨いていきます。

子ども達の未来の為に、多面的機能支払事業を通して、地域の皆さんが、これまで以上に秋津地域に愛着をもてるように取り組んでまいります。